

ネギアザミウマに対する有効薬剤 およびニラえそ条斑病に対する防除対策

伊藤政雄，古味一洋，野村富之

Medicine Susceptibility of Spring Onion Thrips and Control Measures of
Necrotic Streak Disease

Masao ITOU, Kazuhiro KOMI and Tomiyuki NOMURA

要 約

ネギアザミウマは、近年、薬剤抵抗性が発達するとともに、新規侵入病害であるニラえそ条斑病を媒介する害虫である。高知県内の施設栽培ニラ圃場よりネギアザミウマ 13 個体群を採集し、薬剤感受性を調査した結果、ベンフラカルブマイクロカプセル、クロチアニジン水溶剤、スピノサド顆粒水和剤の殺虫効果が高かった。この結果をもとに、株養成期間中は定植時のイミダクロプリド粒剤の処理と定植 40 日後までに殺虫効果の高いこれら 3 薬剤を使用し保毒虫の蔓延を抑える。次作への保毒虫の移動を防ぐため収穫前にスピノサド顆粒水和剤を処理する。各収穫期間中にこれら 3 剤をローテーション散布する薬剤防除体系により、ネギアザミウマおよびニラえそ条斑病の発生を抑えることができる。

キーワード：ニラえそ条斑病，施設栽培，ニラ，ネギアザミウマ，薬剤防除体系，I Y S V